

『牧草収穫前の準備は万全ですか?』

牧草収穫が近づいてきています。サイレージ収穫・調製に向け、事前の段取りは万全でしょうか?今回は事前に行っておきたい項目を事例を交えて紹介いたします。

一 収穫機械の整備

収穫機械の不具合は収穫作業の妨げになります。収穫機械の中でも注意しておきたいのはモアコンのオイル交換、ナイフ部分の交換、オイル漏れです。

これらのチェックは早めに済ませましょう。特にモアコンのデイスク(円盤)の下にオイルが落ちていれば、オイル漏れを疑い整備をしましょう。

また、交換部品がすぐに来ない物もあるので、早めの点検と整備は重要です。五月に入ってから直ぐに整備を始める人もいます。

・モアコンのオイル交換は二年に一度を目安にしましょう。ただし、オイル漏れがあれば交換年に関係なく整備しましょう。

二 サイロ及び周辺の清掃

サイロ内に残渣があると、サイレージ発酵にも悪影響を与えます。一年間使ったサイロはキレイに掃除し、準備しましょう。バンカーの場合、雑菌による腐敗を回避するため、石灰塗布やビルコンなどによる消毒の事例もあります。



【写真1】床にこびりついたサイレージ汚れはバケツやスコップで削り取り竹箒で掃く。



【写真2、3】高压洗浄機での清掃例(上:洗浄前、下:洗浄後)サイレージの下面が黒くなくなくなり、ロスが減ったとの事。

また、サイロ周辺の泥濘化しやすい部分は砂利や火山灰などで整備しましょう。実際に牧草の収穫が始まったときにサイロ前に草を敷き詰めクリーンゾーンを作る事例もあります(左写真)。



【写真4】サイロ内に異物をくれないために、トラックの走行部分に草を敷きクリーンゾーン(点線部分)を作成。

三 予備の場所を確保

夏用や収量が多かった時のためのスタックの場所もあらかじめ確保しておきましょう。スタックの高さは踏圧と二次発酵防止のため、2m未満が理想です。



【写真5】低く積んだスタック特に夏は変敗を防ぐため、小さなスタックで取り出し量を多くできる事が理想です(夏場の取り出し目安は1日20cm以上)。

四 添加剤の準備

不良発酵の多くは高水分によるものです。原料草が高水分となった場合を考え、サイレージ添加剤を準備しましょう。使用に当たっては各メーカーの指定する用法に従いましょう。

五 自分の準備も忘れずに

牧草収穫が始まると日中は牧草収穫、朝夕は搾乳作業の忙しい日々が続きます。牧草収穫が始まる前に「病院」「歯医者」「整体」「理容室」の健康管理、「買い物」などの用事、携帯電話の不調(バッテリーなど)も解消し、万全な体制でシーズンを迎えましょう。

(H二八年四月執筆)

【予備の場所づくり】
 ・スタック設置位置とスタックの幅、長さを決める。
 ・火山灰等を入れて、地盤を固める(泥濘化防止)。
 ・地盤を整備した後希望の幅、長さに杭を打つたり、印をつけておくより良い。
 ・踏圧オペレーターに高さを「2m以内にする」ように伝える。